

田名池開発について / 野甫英芳

■ 7番 野甫英芳議員 田名池開発ですね、これを今後どのように進めていくのかというところをお伺いしたいと思います。この前、田名池開発の推進室も設置されて、400万近く予算も出ていますけれども、田名池（田名グムイ）の面積と田名池のあの状況を考えると、とても1年や2年で終わるような状況ではないんですけれども、具体的な開発計画が現在あるのかどうかというところから、説明をお願いします。

■ 議長（金城信光） 名嘉丈祝企画財政課長。

■ 名嘉丈祝企画財政課長 野甫議員のご質問にお答えいたします。ご指摘のとおり、本事業は去った8月2日に推進事務局を設置いたしました。今般、その事務局を中心に今後の活動展開になりますけれども、今年度内に再生推進協議会、まずは話し合いの場を設置いたしまして、そこで議論した後、どのように復元、あるいは先ほど議員は「開発」というふうにおっしゃいましたけれども、「再生」していくかというところについての住民説明会の開催、もちろんこちらではアンケートなども実施する予定です。

また、この8月2日の事務局の開所式の際にちょっとご説明したところでもあるんですけれども、海外の環境分野に長けている米国のワシントン州立大学、こちらにも協力要請をいたしまして、それに応じてくださって、学術調査を11月の初旬から中旬にかけて概ね1週間程度になるかと思うんですけれども、そういった専門家を^{しょうへい}招聘した学術調査というのも予定しております。そのあとは住民向けのワークショップ、あるいは島内外でのシンポジウムの開催など、この再生計画の認知あるいは機運の醸成、そういったものを図って行って、こちらについては住民参加型の保全、再生、活用方策、そういったものをメインに展開してまいりたいというふうに考えております。

これまでの田名池の機能性、農業用水として活用されてきたわけですが、それと併せて、いわゆる環境のポテンシャル、環境保全ですね、今般SDGsなどという言葉の中でも要約されるとおり、やはり地域の魅力っていうのは、いかに環境負荷が低減されたかたちで持続可能な地域として活動しているかというところを非常に今、世間も注目しているというところに立ちますと、やはりひと昔前と言ったら^{こへい}語弊があるかもしれませんが、いわゆる大型公共工事を投入して、例えばコンクリート造りのガチとした溜池を造るとかっていうものは、やはり「時代性に対してはそぐわないのではないか」というふうに感じておりますし、いわゆる原風景というイメージを考えた時に、やはり地元の皆さんとの意見交換、あるいはヒアリング等では、やはり昔ながらの風景、浮島がある風景というのを非常にノスタルジックに語る皆さんが多いというところもありまして、そういったいわゆる「原風景の姿っていうのをゴールイメージに見据えて、地域住民と協働で再生活動が実施していけたら」というふうに考えているところでございます。以上でございます。

■ 議長（金城信光） 野甫議員。

■ 7番 野甫英芳議員 課長のただ今の説明ですと、「今後はどのようにして？」

「開発の年数とか、土木工事事業が入るんだけどな。」とか、一般の皆さんはおっしゃるわけですね。それから田名池っていうのを知らない住民の皆さんが、「なんで？ ああいうところに池造ってどうするんだ。」って、「あんなに何億もかけるんだったら自分たちに回してくれないか。」とか、いろんな話があるわけですよ。だからそういういろんな意見がある中で、これから住民参加型でやっていくとかっていうことなんですけども、でもちょっと考えても、あの状態を五、六十年前の田名池状態に戻すっていうのは、恐ろしい事業になると思うんですけど、ですので、数年どころじゃなくて四、五、六年とかかかるんじゃない、全て終わるまでかかるんじゃないかと思うんですよね。

そうしますと再生した後の田名池の公園になるかと思うんですけど、この管理をまたしていかないと、また今の状態になってしまうんじゃないかとかあって、そこまで考えているのかどうか、というところですね、工事の年数とか、これぐらいはかかるかも知れないけどとかですね、それから今後の管理体制とか、そこまで現段階で説明できるのかどうか、そのへんちょっと教えて下さい。

■議長（金城信光） 名嘉丈祝企画財政課長。

■名嘉丈祝企画財政課長 野甫議員のご質問にお答えいたします。「この事業、何年スパンの事業になるのか」というところでまずお答えいたしますと、ご指摘どおり環境負荷を低減しつつ再生を行っていくというところで、本当に大袈裟に言うと50年ぐらいはかかるんじゃないか、あるいは100年ぐらいかかるんじゃないかというふうに考えられるところがございます。ただ、いわゆる今現在の田名池についてはほとんどが陸地化、あるいは雑草が生い茂っている状態でございますので、いかに住民参加型の再生事業と申し上げても、土木工事を実施することは間違いないと思います。大型の重機が乗り入れできないような環境でもありますので、そういったものは専門家などのご意見も聞きながら、どのような方法があるかっていうのを、今後協議会の中で検討していきたいというふうに考えています。

ちなみに再生に向けた整備イメージでございますけれども、こちらについては、だいぶもう20年以上前になりますけれども、確かに水べり環境整備ということで、「農業用水としての機能を保ちつつ、いわゆる親水性ですね、公園化を図っていきましょう」という計画が過去にございました。おそらく地域住民の皆さんも、そういった過去二十数年前に議論されたものをイメージしながら、お話をされている方もいらっしゃるかとは思いますが。基本的には、やはり、いくら自然に返しましょうといっても現在生きる我々住民に利便性とか快適性、そういったものもやっていかなければいけないと。ましてやその維持管理に関しましては、そこが一つの観光スポットとして注目を集めて、そこにいろんな人たちが、例えば自然観察をしに来る、あるいは環境学習をしに来るというような、ソフトの部分の取り組みが一番重要になろうかと思っております。

そこで村としても地域メッセージとして、いわゆる環境負荷を低減しつつ「環境を保全していくんだ」というようなメッセージによって、例えば今現代でいうとクラウドファンディングであるとか、あるいは今実施している企業版ふるさと納税のような、そういった趣旨に賛同してくださる方々の寄附行為、そういったものも取り入れながら、あるいは一緒になってボランティア活動をやりたいというような皆さんが気軽に参画してくださるような体制づくりとか、そういったものによって、

なるべくお金をかけずに、あるいは補助金とか村の一般財源を拠出しないような、そういった取り組みによって維持保全、そういったものが図っていけないかなというふうに考えております。

ちなみに、やはり環境先進国である米国は、ほとんどの場合、州立、国立の公園にはボランティアが常駐しております。チップを渡す風習があるところがございますので、寄附行為も盛んに行われています。そういったところも、やはり学ぶべきところは学びつつ、あるいはそういった外部の見識をもっていらっしゃる皆さんと関係を築きながら、田名池の保全と永続的な取り組み、持続可能な取り組みというのをみんなで考えていければというふうに考えています。以上でございます。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 課長の説明もよくわかりました。実は、課長、今、行政で扱っている若者未来会議とか、それから産業推進会議とか、その場でも時々こういうものを造って何をするんだっていう意見が出るじゃないですか。「他のところに予算使えよ。」というような声があがるかと思います。

なぜそういう話になるかっていうと、今のところそのイメージが全然湧かないために、そういう状況になっていると思いますので、まずイメージを先行して、映像で、こういう状態にするんだっていうことを見せながらやったほうが進み具合がいいかと思いますので、是非よろしく願いいたします。